

【春日神社】の「秋の御祭礼」紹介

【春日神社の紹介】



今回ご紹介する内容は、582年[創建：嘉吉2年(1442年)と伝承]の歴史がある枚方市東部にある【春日神社】の[御祭礼]についての紹介です。創建当時は「津田村」と呼ばれる地域で、河内地方でも北河内に位置しております。「御祭礼」について、当時は宮座が輪番で献供し、現在でもその宮座は存続しています。秋季例祭の際に、宮座の秋季例祭も執り行われます。中世の祭祀形態である「宮座」が現存する数少ない神社です。現在の社殿は、奈良の春日大社の明和3年(1766年)式年造替の社殿で20年後の造替(西暦1786年)時に譲り受けたものです。

本社本殿は、一間社春日造檜皮葺の春日大社旧本殿を移築した「春日移し」、末社 若宮八幡宮本殿は三間社流造檜皮葺、春日大社末社三十八所神社本殿の

<2025年新年飾り> 「三十八所移し」であり、全国11棟のみで、府下では 唯一の貴重な遺構です。

【御祭礼の由緒】

明治5年に村社となり、八王子権現社・治郎兵衛宮と合祀され明治41年には神饌幣帛料共進社に指定。往時より神社固着の氏子の宮座(津田座・南座・兵衛座・四十人座)が輪番交代で御神酒御供を献じていたが、現在はその宮座は一組となり四座となっている。さらに侍座・杉植座・植元座・久和也座・親九郎座・横御鏡講・谷本座を加え、宗祐座が加わり九座で毎年10月19日の御祭礼日に神饌を献じている。中世の祭祀形式である「宮座(各員が輪番で頭屋をつとめ祭祀を行う集団)」が現存する数少ない神社である。

《本殿内部》

《拝殿・舞殿》
<名物：大太鼓>



令和6年の「御祭礼」は、稲刈りが終わった10月18日・19日の2日間に行われました。地域の関係する氏子(大別7地区)代表の皆さんは、開催前からの準備や祭り当日の朝5時からののぼり立て等々大変でした。数多くの出店が並び地域子供たちが待ってましたばかり集まり始めると、次第に大人たちもお参りに集まって来ました。いつもは、通る人もまばらな宮前通りが、夜のとぼりが訪れる頃には、大勢の人だかりとなり大変な賑やかさとなりました。

【秋季御祭礼 賑わう模様】

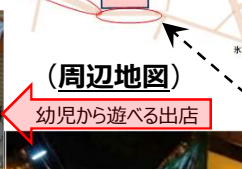
【氏子 地区名】

- ① 横(ヨコ) ② 嶽(タケ) ③ 大谷(オオニ)
- ④ 東谷(ヒガシタニ) ⑤ 谷(タニ)
- ⑥ 北町(キタマチ) ⑦ 他

(筆者の元住まいはNo.⑤)

※OB会「かわせみ会」より一句♪

【稲刈りて 鎮守の社に のぼり立つ】



【周辺地図】

幼児から遊べる出店

情報提供者：岡澤浩二、投稿者：園田良孝